



図書館からのおねがい（転入・転出について）

- ❁ 引っ越しなどで住所や連絡先が変わられた場合は、登録の変更が必要です。図書館のカウンターへお申し出ください。（新しい住所が確認できるものが必要です）
- ❁ 転出の際には、図書館で借りた資料の返却忘れにご注意ください。貸出状況は、カウンターや電話でお尋ねいただくか、ホームページからログインしていただき、ご確認ください。



図書館カレンダー（3月）

20冊・3週間 借りられます

日	月	火	水	木	金	土
🌸	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	🌸	🌸	🌸



今月の展示

小説

文藝春秋
芥川賞・直木賞

実用書

10年目の、3.11
通園・通学グッズ
安野光雅の世界



館員おすすめの一冊

『ルーパートのいた夏』 ヒラリー・マッカイ/作・富永星/訳（徳間書店）

イギリスの児童文学作家ヒラリー・マッカイ作、2018年にイギリスの名誉あるコスタ賞を受賞した作品をご紹介します。物語の舞台は今から約百年前のイギリス。生後すぐに母を亡くした少女クラリーは、3歳年上の兄ピーターと父と3人で暮らしていました。子供嫌いの父から愛されることのない寂しい日々の中、夏の間コーンウォールに住む祖父母の家で過ごす時間が何よりも楽しみでした。豊かな自然と明るい笑顔のいとこのルーパートが大好きでした。けれど第一次世界大戦がはじまり、ルーパートは卒業と同時に自ら軍隊へ入隊してしまいます。生死がわからない不安な時を過ごしながらクラリーも成長してゆきます。そして女性としてまだ大学に進学することがめづらしい時代、オックスフォード大学へと進学します…。

時代背景がしっかりしていて、この時代の女性の教育やルーパートの目線で戦争の悲惨さが描かれています。心優しく、努力家の主人公クラリーがしっかりと自分の足で歩いてゆく姿に共感でき、結末のクラリーとルーパートの二人がどうなっていくのか…心に残る物語です。ティーンズ、一般の方にも読みやすくおすすめです。（I）



新刊紹介



この他にもたくさんあります！
貸出中の本には予約ができます

『その話、諸説あります。』 雑学	トシヨナルシオウラ フイナリ/編	日経トシヨナルシオウラ フイナリ/編	
『手の倫理』 さわる/ふれる触覚のコミュニケーション	伊藤 亜紗		講談社
『「民族」で読み解く世界史』	宇山 卓栄		日本実業出版社
『旅がもっと面白くなる地理の教科書』	松本 穂高		ベレ出版
『九州喫茶案内』	小坂 章子		書肆侃侃房
『家族が認知症かも？と思ったときの7-ステップ』	河野和彦/監修		KADOKAWA
『病気にかかるお金がわかる本』	畠中 雅子 [ほか]		主婦の友社
『感染症時代のマスクの教科書』	飯田 裕貴子 [ほか]		小学館
『絶滅危惧個人商店』	井上 理津子		筑摩書房
『にほんでいきる』 外国籍の子どもたちの教育の実態	毎日新聞取材班/編		明石書店
『病と障害と、傍らにあった本。』 闘病記	齋藤 陽道 [ほか]		里山社
『神さまの貨物』 外国文学	ジャン・クロード・グランベール ボブ・ラビ		



西館日和

弥生三月、草木も芽吹きはじめ桜の開花も待ち遠しく、春本番もまもなくでしょうか。今月11日は東日本大震災発生から10年になります。今でもあの日の衝撃的な映像が脳裏に焼き付いていて、目を閉じると浮かんできます。押し寄せる津波、小箱のように流される車と家、高台に避難している人に吹き付ける雪、そして一夜明けた海岸の惨状。自然災害のもたらす破壊に対して、大切な人を失った深い悲しみや悔しさはどこにもやり場がなく、立ち尽くす人の姿。テレビから伝えられる被災地のニュースに、多くの人が胸をしめつけられ涙を流されたことだと思います。

報道などで復興のようすが取り上げられ、街の外観は整いつつあるようにみえます。時間が薬ともいいますが、人々の受けた深い傷が少しでも癒えてほしいと思います。言うまでもありませんが、今の私たちにできることは、あの日起こったことを忘れないこと、災害に備えること、日々を大切に生きることではないかと思います。館内の展示コーナーに東日本大震災に関連した資料を集めています。どうぞお立ち寄りください。

館長 池田